



©Keiji Uematsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

植松奎二 「-見えない力と浮くこと-」

Keiji Uematsu Invisible Force and Floating

会期：2019年10月19日(土) - 11月30日(土)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間:12:00-19:00 定休日:日、月、祝日

クロージングパーティ：11月30日(土) 18:00-20:00

*展覧会初日ではありませんのでご注意ください

2019年10月19日(土)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuでは、植松奎二の「-見えない力と浮くこと-」を開催いたします。

植松奎二は、1969年の初個展以来、鉄や石、ガラスなどを用いた彫刻作品のほか、映像、写真、インスタレーションなどを制作してきました。1975年に渡独した後は、欧州各地のギャラリーや美術館で個展を行うなど、精力的な活動を続けています。1988年にはヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表に選出され、2013年には第38回中原悌二郎賞を受賞するなど、その一貫したコンセプトに基づいた作品群は、国内外で高い注目を集めてきました。現在は、日本とドイツにアトリエを構え、制作を行っています。

本展は、植松が1973年に京都のギャラリー16で行ったインスタレーションを、作家自身の手により再制作するものです。植松は、これまでも身体と空間の関係や、事物と事物の関係、そして重力や張力などの「見えないもの」を目に見える事物を通して可視化する作品を手がけてきました。今回再現される、石、板、ロープが精密なバランスで均衡する作品は、植松のそのような関心を、きわめて明確に提示するものです。それは、個々の「もの」という具体的かつ形而下的なものを通じて、「構造」「関係」「存在」などの普遍的かつ形而上的な対象を捉える試みでもあるでしょう。同時に、精密なテンションによって成立するこの作品は、崩壊の予兆をはらみつつ持続する持続的な状況のなかで事物相互を均衡させることで維持されています。こうして、目には見えない「時間」という要素をもちまわ植松の彫刻的实践は、同時代の彫刻の状況ともリンクしつつ、きわめて独自のものであり続けています。また、この作品の均衡状態が、石、板、ロープという、それぞれに異なる固有の機能・性格をもつ事物の性格を活用し、引き出すことで成立しているという点も、注目すべきかもしれません。

この度再現される展示は、初期の植松の根幹となる思考を伝えるものであると同時に、その仕事がいかに一貫した関心のもとに持続してきたかを伝える実例となっています。本展では、インスタレーションのほか、ドローイングや写真などを併せて展示し、その活動を振り返ります。



■アーティストステートメント

今回、'72年の身体を使った一番最初の写真作品と立体作品の再制作の関係性と浮く石の記憶（2019）でもって過去から現在、未来をみようとしています。

“僕は以前から宇宙の如くそこにある全体的な構造や物体の不確かな存在やそれら相互の関係がもしそのうちの一つの要素が欠けたら瓦解してしまうであろう、そういったものを作りたいと思ってきた。

全体の関係を維持しているものは何であるのか またその関係をこわして全く別な関係を生じさせるのは何か、それが僕にとって気がかりな事である”（1992）

僕たちは重力がなければ生存できない。重力は宇宙を含めて全てのものを支配する。僕は目に見えない重力のかたちを空間の中に作るうとしてきた。

この様な考えかたが今回の個展のなかにみえてくると思います。

植松奎二

■アーティストプロフィール

植松奎二

UEMATSU, Keiji

- 1947 兵庫県生まれ
- 1969 神戸大学教育学部美術科卒業
- 1975 渡独、デュッセルドルフに住む
- 1986 西宮市とデュッセルドルフにアトリエを構える
- 1995 箕面市とデュッセルドルフにアトリエを構え制作と発表をつづけている

主な個展

- 1969, 70, 71, 73, 74, 75, 79, 84, 95, 12, 15 ギャラリー16/京都
- 1976-77 「彫刻・写真・ビデオ・フィルム」ストックホルム近代美術館/スウェーデン
- 1977 アウスシュニッテ1「植松奎二」デュッセルドルフ市立近代美術館/ドイツ
- 1980 市立レンバッハ美術館+クンストフォルム/ミュンヘン、ドイツ
- 1980-81 「軸 - 経度 - 緯度」 P.S.1.ニューヨーク/アメリカ
- 1981 今日の作家シリーズ「植松奎二展 立体と写真」大阪府立現代美術センター/大阪
- 1981, 83, 86, 91, 92, 01, 04, 08, 16 ボードワン・ルボンギャラリー/パリ、フランス
- 1981, 85, 89, 93, 18 ギャラリー・ロオール/メンヒェングラッドバッハ、ドイツ
- 1984, 87, 97, 03 INAX ギャラリー/東京
- 1997 「知覚を超えてあるもの」西宮市大谷記念美術館/西宮、兵庫
- 1999, 02, 05, 07, 09, 12, 13, 17, 19 ノマル ギャラリー/大阪
- 2003 「身体と眼差しへの思考、'70sの写真・映像から新作まで」北九州市立美術館/福岡
「地軸の傾きから」 国際芸術センター/青森
- 2005 「Axis - Latitude - Longitude」 マールカステン美術家協会/デュッセルドルフ、ドイツ
- 2006 「時間の庭へ」西宮市大谷記念美術館/西宮、兵庫
- 2010 ギャラリーヤマキファインアート/神戸、兵庫
- 2011 クムサンギャラリー/ソウル、韓国
- 2011 「1970年代へ 写真と美術の転換期 -複写 反射 投影-」ユミコチバアソシエイツ/東京
- 2011-12 ボードワン・ルボンギャラリー「平行軸 空間-時間 (Uematsu & Skoda)」/パリ、フランス
- 2013 「截接一軸・経度・緯度」ユミコチバアソシエイツ/東京
フリーズマスターズ「スポットライト」（ユミコチバアソシエイツ）/ロンドン、英国
- 2015 「見えない力」アラリオギャラリー、チョナン/ソウル、韓国
「見えない力」ユミコチバアソシエイツ/東京
- 2016 「見えない力」Jacobihaus/デュッセルドルフ、ドイツ
「見えない力」Simon Lee Gallery/ロンドン、イギリス
- 2019 「見えない力」Simon Lee Gallery/ニューヨーク、米国



主なグループ展

- 1969 「第1回現代国際彫刻展」箱根彫刻の森美術館/神奈川
- 1972 「今日の作家'72展」横浜市民ギャラリー/横浜、神奈川
- 1974 「日本の伝統と現代」デュッセルドルフ市立近代美術館/ドイツ
- 1981 「アートナウ'70-'80」兵庫県立近代美術館/神戸、兵庫
- 1983 「写真による芸術」ベルリン・ナショナルギャラリー/ドイツ
- 1983-84 「現代美術における写真」東京国立近代美術館/東京、京都国立近代美術館/京都
- 1985-86 「彫刻展」カルティエ現代美術財団/フランス
- 1988 「第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ、日本館」ベニス/イタリア
- 1989 「せとだビエンナーレ」広島県瀬戸田町/広島
- 1990 「第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻展」神戸市立須磨離宮公園/神戸、兵庫
- 1994 「関西の美術 1950-1970」兵庫県立近代美術館/神戸、兵庫
- 1997 「重カ-戦後美術の座標軸」国立国際美術館/大阪
- 2000 「ヘルシンキ 2000 アートガーデン」テレー湾/ヘルシンキ、フィンランド
「大地の芸術祭・越後妻有アート・トリエンナーレ 2000」松之山町/新潟
- 2005 「ポチョン国際彫刻シンポジウム」ポチョン/韓国
- 2006 「空間に生きる-日本のパブリックアート」札幌芸術の森美術館/札幌、世田谷美術館/東京
- 2007 「日本現代芸術祭」ヘイリ/韓国
「天体と宇宙の美学」滋賀県立近代美術館/滋賀
- 2009 「ビデオを待ちながら-映像、60年代から今日へ」東京国立近代美術館/東京
「神戸ビエンナーレ Kobe Biennale 2009 -港で出会う芸術祭-」神戸港/兵庫
- 2010 「大原 Best 大原 美術館創立 80 周年記念特別展」大原美術館/倉敷、岡山
「コレクション展 2 ・近年の収蔵品を中心に」国立国際美術館/大阪
- 2011 「1970年代へ写真と美術の転換期-複写 反射 投影-」ユミコチバアソシエイツ/東京
「鉄に挑む熱き男たち」BB プラザ美術館/神戸、兵庫
- 2012 「対話する美術/前衛の関西」西宮市大谷記念美術館/西宮、兵庫
「言葉と美術が繋ぐもの-中原佑介へのオマージュ展」ギャラリーヤマキファインアート/神戸、兵庫
- 2013 「大原現代 Ohara Contemporary」大原美術館/倉敷、岡山
「コレクション展 2 戦後の彫刻: 素材という観点から」国立国際美術館/大阪
「信濃橋画廊コレクションを中心に」兵庫県立美術館/兵庫
「この素晴らしき彫刻の世界」北九州市立美術館/福岡
「中原悌二郎と中原悌二郎賞の作家たち」中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー/旭川、北海道
- 2014 「SPEKTRUM」ギャラリーロオール/メンヒエングラッドバッハ、ドイツ
「村岡三郎へのオマージュ」ギャラリー16/京都
「In-between・植松奎二/渡辺信子」ボードワン・ルボンギャラリー/パリ、フランス
「植松奎二/渡辺信子」シャトゥーメゾン/モーゼル、フランス
「あさご芸術の森 野外彫刻の作家たち展」あさご芸術の森美術館/朝来市、兵庫
「聖アンドレ大修道院メイマック現代アートセンター/メイマック、フランス
「Image And Matter In Japanese Photography From The 1970s, Curated By Yumiko Chiba」マリアンボエ
スキーギャラリー/ニューヨーク、米国
「4x4」ステファンフリードマンギャラリー/ロンドン、英国
「artevida: corpo [body]」カーサフランカ/リオデジャネイロ、ブラジル
「丘の上のタカラ箱」北九州市立美術館/福岡
「夏のクール・スポット 垂直の夢・水平の思考 自分の手足を定規にしたら」京都市立美術館/京都
「1974 戦後美術の転換点」群馬県立近代美術館/高崎、群馬
「倉敷市立美術館の洋画名作選」倉敷市立美術館/岡山
- 2015 「For a New World to Come Experiments in Japanese Art and Photography, 1968-1979」ヒューストン美
術館/ヒューストン、米国グレイアートギャラリー/ニューヨーク、米国/ジャパソサエティ/ニューヨーク、米国
「Re:play 1972/2015」東京国立近代美術館/東京
- 2016 「Performing for the Camera」テートモダン/ロンドン、イギリス
Dusseldorf Photo Weekend 2016/デュッセルドルフ、ドイツ
- 2018 「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」国立国際美術館/大阪
「アジアにめざめたら」東京国立近代美術館/東京、韓国国立現代美術館/韓国、ナショナル・ギャラリー・シンガ
ポール/シンガポール
- 2019 「Inside Out: Jiro Takamatsu and Keiji Uematsu in conversation / An exhibition of post-war Japanese
sculpture」Royal Society of Sculptors, Dora House/ロンドン、英国



受賞

1973	第8回ジャパンアートフェスティバル 優秀賞
1974	神戸市文化奨励賞
1990	第12回神戸須磨離宮公園現代彫刻大賞受賞
1993	第15回現代日本彫刻展 宇部興産株式会社賞 神奈川県立近代美術館賞
1995	第16回現代日本彫刻展 宇部興産株式会社賞
1997	第28回中原悌二郎賞優秀賞 第17回現代日本彫刻展 宇部興産創業100周年記念賞 兵庫県立近代美術館賞
1998	第22回井植文化賞（文化芸術部門）
1999	第6回朝来2001 野外彫刻展 in 多々良木 '99 大賞
2010	神戸市文化賞
2013	第38回中原悌二郎賞

主なパブリックコレクション

兵庫県立美術館
西宮市大谷記念美術館
国立国際美術館
神奈川県立近代美術館
大原美術館
北九州市立美術館
旭川市彫刻美術館
カルティエ現代美術財団
ストックホルム国立近代美術館市立レンバツハ美術館
プレーメン美術館
MoMA NY

関連情報（ロンドンでの展覧会）

INSIDE/OUT: JIRO TAKAMATSU AND KEIJI UEMATSU IN CONVERSATION

An exhibition of post-war Japanese sculpture

会期：2019年9月30日（月） - 11月29日（金）

会場：Royal Society of Sculptors, Dora House

108 Old Brompton Road, South Kensington, London SW7 3RA

【本展に関するお問合せ】 ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ オフィス

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#205 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp

[website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日